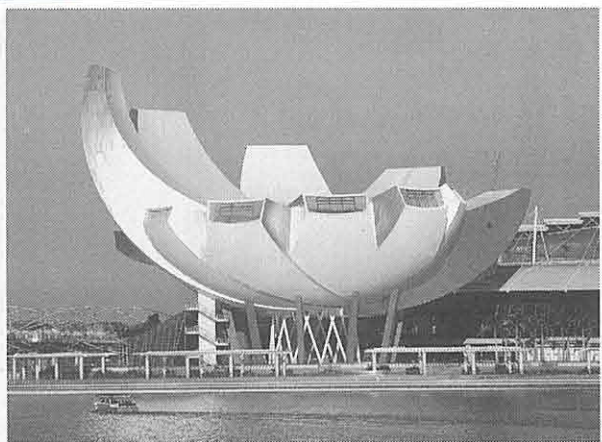


# 第15回ステンレス協会賞

## 新需要開拓に貢献

### 入賞作品12点を紹介

ステンレス協会賞はステンレスの普及、需要開発の促進を図るとともに、社会環境との調和と文化の向上に寄与することを目的に、優れたステンレス製品を表彰する制度で、1993年度にスタート(01年度以降は隔年実施)し、今回が15回目。作品募集はステンレスメーカーの推薦に加え、全国8地区のステンレス流通協会への依頼、またホームページで応募を呼びかけた結果、28点(前回23点)の応募があり、選考委員会で最上位の採点結果を得た「マリナーナベイ・サンズ アートサイエンス・ミュージアム」(応募会社「三菱樹脂」)を最優秀賞に選出、このほか「太陽光発電パネル架台」(応募会社



マリナーナベイ・サンズ アートサイエンス・ミュージアム

社「コマックス」など優秀賞10点、特別賞1点の合計12点が表彰された。最優秀賞には表彰状と副賞30万円、優秀賞と特別賞には表彰状と副賞10万円が授与された。

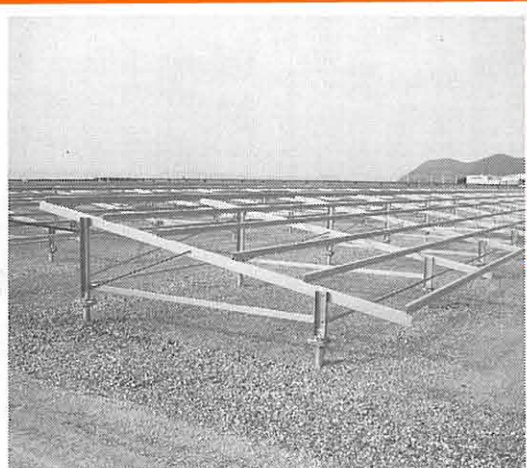
部門別の応募作品数は、①建築・土木部材は、②建築・土木部材(建築または土木部材として製作されたもの)12点③製品(単体として機能を発揮し、完成された商品として単体で販売されるもの)3点④機能性部材(ステンレスの特性を機能として生かした部材、部品(本来、単

体としては販売されないもの)8点⑤モノユメント、オブジェ4点⑥その他1点の合計28点。今回の傾向としては土木・建築部材および機能性部材が多かった。以下に受賞した製品概要を掲載した。

〈最優秀賞〉  
▽「マリナーナベイ・サンズ アートサイエンス・ミュージアム」  
応募会社「三菱樹脂、推薦会社「日新製鋼」  
選考理由「シンガポールのビジネス地区中心に位置するマリナーナベイ・サンズは、ビジネス、娯楽、エンターテイメントにおけるアジアの主要な目的地。マリナーナベイ・サンズ内にあり、蓮の花をイメージしてデザインされた「アートサイエンス・ミュージアム」は世

界の主要な展示の場として国際的に知られている。

この「アートサイエンス・ミュージアム」の外装材に採用されたのは、三菱樹脂のALPOLIC/frSCMで、芯材にはfr(不燃無機ファイバー混入防火性芯材)を使用した。



太陽光発電パネル架台

この「アートサイエンス・ミュージアム」の外装材に採用されたのは、三菱樹脂のALPOLIC/frSCMで、芯材にはfr(不燃無機ファイバー混入防火性芯材)を使用した。

この「アートサイエンス・ミュージアム」の外装材に採用されたのは、三菱樹脂のALPOLIC/frSCMで、芯材にはfr(不燃無機ファイバー混入防火性芯材)を使用した。

使い、面材にはSUS316のステンレスを使用することで高級感のある意匠と高い耐食性を発揮し、複合板にすることでステンレス単板よりも軽量化が図れている。その美しい外観と高機能性はステンレス鋼の特徴をアピールするものであり、樹脂とSUSの複合パネル素材はステンレスの重量で扱いが困難といった不利な点も克服でき、建材物件のほか、新たな用途拡販にも貢献した。

使用鋼種はSUS316、SUS304。使用量は合計で約17t。

使い、面材にはSUS316のステンレスを使用することで高級感のある意匠と高い耐食性を発揮し、複合板にすることでステンレス単板よりも軽量化が図れている。その美しい外観と高機能性はステンレス鋼の特徴をアピールするものであり、樹脂とSUSの複合パネル素材はステンレスの重量で扱いが困難といった不利な点も克服でき、建材物件のほか、新たな用途拡販にも貢献した。

使用鋼種はSUS316、SUS304。使用量は合計で約17t。

どの対応により、従来ほとんど参入できなかった太陽光発電のパネル架台の市場にステンレスの普及を面的に推進した。

使用鋼種は二相鋼ステンレス(21Cr12Ni1N)で使用量は1010t×455ヶ所。

この状況の中で、パネル架台に新型二相ステンレス鋼を採用し、普通鋼メッキ鋼板などでは厳しいと思われる環境での長期間使用を可能にし、コスト面では架台素材の薄肉化(軽量化)により鋼材使用量を大幅削減。加えて施工作业性のアップ、運賃コストの低減、部品簡素化による部品点数の削減も図られている。また独自加工技術で鋼材コイル材から必要サイズに切断・加工することで材料ロスも最小限に抑えて安価なパネル架台の提供を可能にするな